明治大学大学院政治経済学研究科特別講義

『脱原発-ドイツの選択、
そして日本は？』

ドイツの脱原発が可能になった理由を考える

講　師　　川口 マーン 惠美（作家）
（2011年4月より，拓殖大学日本文化研究所 客員教授）

日　時　　2011年10月28日(金)
14:40～16:10

場　所　　駿河台校舎リバティタワー16階
1165番教室

司　会　　水戸部　由枝（政治経済学部専任講師）

【講師略歴】
大阪生まれ。日本大学芸術学部音楽学科卒業。85年，ドイツのシュトゥットガルト国立音楽大学大学院ピアノ科修了。シュトゥットガルト在住。90年、『フセイン独裁下のイラクで暮らして』（草思社）を上梓。その鋭い批判精神が高く評価される。著書には、『国際結婚ナイショ話』『ドレスデン逍遥』（以上、草思社）、『母親に向かない人の子育て術』（文春新書）、『証言・フルトヴェングラーかカラヤンか』（新潮選書）、『日本はもうドイツに学ばない？』（徳間書店）、『ドイツ料理万歳！』『ベルリン物語』（以上、平凡社新書）、最新刊『サービスできないドイツ人、主張できない日本人』（草思社）などのほか、訳書にマイク・ブラツケ『北朝鮮「楽園」の残骸』（草思社）がある。
現在、http://gendai.ismedia.jp/　にて好評連載中（毎週金曜日更新）

予約不要・参加自由

政治経済学研究科　TEL：03-3296-4150